

奈良市公民館運営審議会会議録

令和8年2月24日会議

令和7年度第2回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	令和8年2月24日(火)午前10時00分から11時40分まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟6階 正庁	
議題 又は 案件	(1)令和7年度公民館事業の実施状況について (2)令和7年度公民館大会について (3)その他 ・奈良市公共施設予約システムについて ・平城西公民館の建て替えについて	
出席者	委員	今西委員、奥村委員、香川委員、紀委員、小西委員、小林委員、杉山委員、橋本委員、森委員、吉岡委員【計10人出席】
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局公益事業課長
開催形態	公開(傍聴人1人)	
担当課	教育部 地域教育課	

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

議事の内容

○教育長挨拶

○会議録の署名について

議長から今回の署名委員の指名及び確認(橋本委員と香川委員)

(1) 令和7年度公民館事業の実施状況について

〈生涯学習財団事務局説明〉

「資料1 令和7年度公民館利用状況」をご覧ください。令和7年4月から12月までは28,333件・387,666人の利用がありました。令和6年度の同期間と比較して、件数は827件の増、人数は19,744人の増となっております。令和7年12月までの利用人数の内訳といたしましては、主催事業が49,769人、施設提供が337,897人となっております。主催事業の回数につきまして、1,387回的主催事業を開催し、延べ49,769人の方にご参加いただいております。現時点で集計した利用状況での報告となりますので、この数字に令和8年1月から3月の利用状況がプラスされたものが今年度の最終的な利用状況となります。全体として利用者数は増加傾向にあります。ただ、令和8年2月から令和8年秋頃まで、中部公民館のトイレの洋式化工事および5階ホールの設備工事が行われるので、利用者数に影響があると見込まれます。

それでは、主催事業につきまして、具体的に紹介させていただきます。

資料の「令和7年度特色ある事業について」をご覧ください。こちらは、令和7年度の特色ある事業で、(1)子どもの学び、(2)シニアの身体と心の健康、(3)奈良を知る・愛する、(4)共生社会への学び、(5)公民館を知る・学ぶことの意義を考える、(6)家庭教育サポートネットワーク支援事業、について、左から「施設名」「重点分野」「講座名」「開催期間」「開催回数」「対象」「定員」「申込者数」「受講決定者数」「延べ受講者数」「講座概要」の順に掲載しております。

また、別紙でその事業に応じた写真を掲載しておりますのであわせてご覧ください。ここでは時間の都合で、要点とその背景のみをお話させていただきます。まず、令和7年度は、施設ごとに策定している5年間の計画の3年目に当たります。地域の現状を分析し、そこから見えてくる地域課題を踏まえ、これまでの成果を土台と

して年度毎に目標を設定し、その達成に向けた取り組みを組織的に着実に進めるようにしています。

「(1)子どもの学び」をご覧ください。

都跡公民館「昔のくらし体験～かまどで新米を炊こう～」では、奈良市文化財課と共催して公民館に隣接する江戸時代に建てられた市指定文化財の旧田中家住宅を活用した事業です。元々は奈良市法蓮町にあった古民家が、都跡公民館の脇に移築されたものですが、土間や竈は現役で使用できます。そこで館では4月から5月にかけて、「かまどマスター養成講座」を開催し、その結果として結成された「かまどマスタークラブ」が講師となり、同講座を開催しました。市内在住在学の小学生と保護者が19人集まり、奈良の文化財に親しみ、昔の人々の暮らしや知恵を体験しました。地域の文化財を活かし、世代や時代を超えた学びの循環を生み出す取り組みとなりました。

「(3)奈良を知る・愛する」をご覧ください。「プチ田舎暮らし・都祁一ゆったり古代米一」です。これは過疎化が進む中山間地域の活性化を目指し、平成24年度から東部五館が自主的にスタートしたのですが、その後、奈良市と連携して、大人を対象にした地域の魅力を体験的に発信していく事業を継続しています。

「(5)公民館を知る・学ぶことの意義を考える」をご覧ください。

平城公民館の「創立40周年記念 平城公民館まつり」です。これは、これまで40年の歴史を持つ平城公民館の節目として、そこで活動する自主グループの日頃の成果発表や交流の場として開催しました。

近隣の平城中学校の吹奏楽部や、地域のおやじバンドによるコンサート、歌声ひろばや落語会など多様な催しとともに、近くの奈良少年院の作業製品展示販売を行い、少年達の更生を願う機会にもなりました。このように公民館が、自主グループ活動の拠点としてだけでなく、学びを通じて多様な活動や施設ともつながり、公民館を通して地域を知る拠点となっている一例かと思えます。

「(6)家庭教育サポートネットワーク支援事業」をご覧ください。

二名公民館の「親の笑カフェ」です。奈良市では、平成25年度に文部科学省から委託事業の公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラムを受託し、二名公民館はその実施館となりました。二名中学校区の学校や園、PTA、自治連合会、民生委員など約50名の皆さんを巻き込み「地域育ち☆親と子の支援プロジェクト」が立ち上がり、その後2年間にわたって青少年や学童、乳幼児を対象とした3つの委員会が企画・実施する家庭教育支援の講座やイベントを開催されました。その結果、その支援者たちによって結成され、自主的に活動しているのが「まなぼう会」です。二名公民館では、その時に生まれた「まなぼう会」と協働して、令和7年度は現代的課題である不登校の子どもを持つ保護者に寄り添うカフェのようなスペースを開き、悩みを語り合いリフレッシュする場を開催しました。約12年間、公民館での学習によって繋がった地域の方々が、自主的に地域にいる課題を抱えた親子のために、学びの機会や居場所を作り続けている実践がここにはあります。

この二名公民館の取組みがきっかけとなり、その後、家庭教育支援事業が全市的に広がりました。令和7年度の時点では、北ブロックと南部、田原、二名、都跡、登美ヶ丘南、月ヶ瀬、都祁の7館で「家庭教育サポートネットワーク支援事業」として、地域の特徴に応じた手法で支援者の皆さんと家庭教育に関する課題を共有して、その解決にむけた事業を展開しています。

このように、公民館が、歴史的に地域に根差して学びから多様な活動を生み出し、それらを支えながら地域に学びを循環させてきた姿の一部をご紹介しましたが、これからも奈良市の公民館として、地域の皆さんとともに多様な課題に向き合い、学びを通じてその解決にむけて組織的に取り組んでいく所存です。

なお、令和8年度公民館事業については、3月議会で令和8年度予算の承認をいただいてから確定となりますので、今回、資料がございません。また、前回の公民館運営審議会でご指摘のあった、Instagramの活用については、現在、次世代の社会参画推進事業「子ども奈良 CITY Z」において試行をはじめています。学生たちが中心となり、自分たちの活動の様子が分かる画像や文章をコンテンツとして事務局に届けてもらい、

それをインスタグラムに掲載する仕組みです。未来をつくり担う彼らとともに、SNS の活用を一緒に考え、進めていこうと考えています。さらに、多様な団体・活動ともさらに協力・連携してまいります。令和8年度も、市民の皆さんと共に、公民館24館で魅力ある事業計画を実施していきますのでご期待ください。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ◇:回答

委員 ◆主体事業の件数は全体平均で55件であるが、登美ヶ丘公民館は平均より少ない51件数なのに利用者数が頭一つ抜けている。どういった取り組みをしているのか聞きたい。

財団 ◇登美ヶ丘公民館の利用者数は地域との連携の中で増えていったのではないかと思っている。たとえば登美ヶ丘北中学校区教育協議会と共催する事業「とみきたサマースクール」で学習の機会を増やしたり、地区社会福祉協議会との共催講座「登美ヶ丘わいわいフェスタ2025」などのイベントをすることで、地域にある様々な団体と連携して事業を展開したことにより、数字が大きくなったのだと思う。

委員 ◆特色ある事業について、定員に対して申込者数が多くなってきていると思うが、何か工夫があったのか。広報とか紙媒体ではない周知の方法なども含めてどう工夫されているのかを聞きたい。

財団 ◇たとえば子ども関係の事業であれば、市の子育て関係の LINE に掲載したり、公民館のチラシをカラーで安く印刷できる業者を利用したりしている。カラーのチラシの効果を実感している。更に年4回以上『公民館だより』を発行し、地域に呼びかけていることも地道に効いてきているのではないか。

委員 ◆家庭教育支援事業について、地域から課題の提起があつて事業が始まったのか、それとも公民館側から地域に働きかけて始まったのか、始まりの経緯を聞きたい。

財団 ◇この取り組みは元々、奈良市で啓発型の事業が実施されており、公民館も携わっていた。平成25年に文部科学省の事業受託をきっかけに、地域とともに一緒にしないと根付かないと感じ、地域団体に公民館側から声掛けをし、地域での課題について一緒に語りあう機会を作り、出てきた課題に対して取り組み、現在に至る。

委員 ♡公民館がリードし、ファシリテートしながら地域の方を巻き込んで事業を展開していったのだと改めてわかった。地元にも展開して行ってほしいと思った。

委員 ◆利用状況について、公民館のロビーを使いやすく、立ち寄りやすいようにしていくという話を前回の会議で伺っていたが、事業に参加したり部屋を借りないで立ち寄られただけの方は資料の利用者数には含まれていないのか。

財団 ◇トイレを借りた方などはカウントしていないが、ロビーや図書室等のオープンスペースを利用された方はカウントし、「その他」の項目として扱っている。

委員 ◆前回会議で議論していた自習スペースの事業は、その後どうなっているのか聞きたい。

財団 ◇公民館は6つのブロックに分かれており、現在1ブロックに1館程度(7館)で自習スペースが稼働しており、館の状況もあるが今後拡充予定である。

委員 ◆自習スペースの取り組みと家庭教育支援事業はリンクしているのか。別の事業なのか。

財団 ◇事業としては別事業だが、それぞれの事業で聞いた声が結果的に反映されていっている。

委員 ◆近くの公民館で青少年の活動で自習スペースを設けていることについて実際しているのかを聞いたが、自習室として1名の方が使われていると聞いた。市全体でこういう形で使えることは周知されているのか。また地域の関係で夜間利用はできないと聞いていた公民館が、最近になって夜間に2件ほど子供の習い事が始まったと聞いているが、どのように活用されている

のかを聞きたい。

財団 ◇青少年の居場所についての告知については、今年が導入 1 年目であり、様子を見ながら運用を修正しているところである。ある程度見通しが経った段階で告知していきたい。

また夜間利用については、伏見公民館だと思われるが、仰る通りこれまで夜間利用はなかったが、地域等との調整でその時間帯に利用できるように調整している。職員の出勤体制も調整しながらなので、様子を見ながら告知していきたい。

委員 ♡中部公民館閉館中に選挙があったが、それまで公民館を利用していない人が中部公民館に投票に行き、置いてあるチラシを取って公民館の活動を知ったと聞いた。こういう機会を活かせればよいのではないか。

財団 ◇普段は西部公民館のみであったが、今回新たに期日前投票会場として中部公民館をお貸ししたところ、想定以上の人数の利用があったと聞いている。当日投票会場としても数館ある。市と話をしながら考えていきたい。

委員 ◆期日前選挙に使っている公民館及び当日投票会場になっている公民館の数はどれほどか。

財団 ◇期日前投票所として西部公民館、中部公民館、当日投票所として西部公民館以外に柳生公民館、田原公民館、三笠公民館、南部公民館の 4 館であり、それ程数は多くはない。

委員 ♡公民館事業の特色って何だろうと思った。事業の内容を整理して今回資料を作成していただいたと思う。例えば、「わくわく☆というランタンづくり」はまちづくりの市民が主体の活動で、そこに特色を見ることができる。子供がランタンをつくり地域の様々な場所に置くというこの事業では、まちづくりについて公民館をうまく使ってつなげていく入口になったという非常にユニークな取り組みになっている。こういう様々な団体とタイアップして事業を作っているということだけで整理すれば、また違う見方ができる。例えば、公民館だからできる事業はどういうものかという視点から見ると、また見え方が変わるのではないか。

「昔のくらし体験～かまどで新米を炊こう～」は物凄く公民館らしい事業だと思う。最初に公民館で学んだことを活かして、今度は自分たちが事業を作っていく、担っていくことを通じたまなびへ。まなびが公民館の事業にどんどん循環していくのが教育機関としての公民館の強み。公民館で学んだことを活かして、より公民館が元気になっていく。議題に応じて特色ある事業を整理していただき切り口を今後変えてもらえると、より議論が進んでいくのではないかと思った。

委員 ♡「公民館の特色ある事業」について、公民館の利用者にシェアしていい情報ではないかと思う。公民館が市内で様々な事業をしていることがこの資料からもわかる。公民館にきっかけあって立ち寄られた方が手に取れるのもよいのではないか。

財団 ◇現代的課題に対する公民館事業を意識して資料を作成している。これから事業を展開していくにあたり、利用者へのシェアについても進めていく必要がある。各館の『公民館だより』やホームページでアピールはしているが、今後「特色ある事業」という形も含めてアピールして、それをもって公民館について考えて頂けるきっかけにしていきたいと思う。

委員 ◆利用料金について、各公民館によって違うのか、団体によって違うのか。減免を受けている団体もあると聞いているが、どういう条件で適用されているのか聞きたい。またふれあい会館も同様か。

市 ◇条例で使用料金が定まっている。条例の根拠は光熱水費等を部屋の大きさも考慮しながら

最後に公民館分館におけるシステムについてですが、分館の指定管理者でシステムを利用したいという要望をいただいている館もあり、令和8年度に現在のシステムに分館を追加する予算要求を行っています。新年度になりましたら、分館の指定管理者にシステムの説明を行い、利用希望の館がありましたら、どのような利用を考えているかなどをお聞きした上でシステムへの追加業務の委託を行います。ただ、分館独自のシステム構築ではなく、現行設定されている公民館機能を分館でも準用することになります。その中で、分館において使う機能を取捨選択していただき、運用をしていただくという流れです。

・平城西公民館の建て替えについて

平城西公民館の建て替えについて、前回会議以降の状況について、現在課として把握している内容を資料に沿ってご報告させていただきます。まず、現状についてでございますが、旧神功小学校跡地については、地域要望等を踏まえ、公民館、こども園、住宅等を整備する予定となっております。令和7年6月議会の承認を経て、公民館用地を含めた跡地全体の造成工事に向けて調整・協議等が進められており、公民館については、用地の造成が一定進んだ段階で設計に着手し、続けて建設工事を実施予定となっております。

地域住民からの声については、11月29日に神功自治連合会が主催した検討会で、公民館について概説するとともに、過去にいただいていた跡地活用全体に対する要望書を踏まえた新しい公民館のコンセプト案を提示し、参加者と意見交換を行いました。後日、神功自治連合会が検討会時のアンケート結果と公民館利用者のアンケート結果をとりまとめた要望書を受領し、現在、内容を整理中でございます。なお今後のスケジュールでございますが、これだけの規模の開発になるため、本資料の最後に参考として記載しているスケジュールが変わることもあります。予めご了承ください。

続きまして、地元の自治連合会が開催した検討会について概要をご報告いたします。全体として2時間45分を超える会となりました。まずは、自治連合会から、趣旨説明が行われ、アンケートの記入・提出について参加者への依頼がありました。続いて、地域教育課から公民館の概要や新公民館のコンセプト案を説明させていただきました。また市からの説明として、公民館だけでなく旧神功小学校跡地開発の全体を統括している総務部から、開発の進捗状況について説明がありました。その後、自主グループ「平城西公民館建替え計画を考える会」による平城西公民館の自主グループのアンケート結果の報告、「もっと知りたい！公民館！」による魅力的な公共施設の写真・動画の紹介、市内公民館利用者に広くアンケートを行った結果の報告が行われました。その後、本説明会参加者によるグループワークを2班に分かれて実施しましたところ1時間半近く、と想定よりも皆様が意見を活発に出していただき時間をかけることになりました。最後に、話し合った内容の発表を行い、会が終了となりました。

次に、この検討会で「市から提案したコンセプト案」等についてでございますが、資料にあります通り、コンセプト案、サブコンセプト案をお示しするとともに、これらのコンセプトに基づいた「新しい公民館で実現したいことの例」、この実現したいことを叶えるために「欲しい機能の例」をお示しました。これらは、現在、課としてイメージしているだけのものであり、これを手掛かりに、検討会に参加された皆様には意見をいただくこととしましたが、これらの案や例については、特に反対の声はなく、現在いただいているアンケート結果においても、ここに追加するような様々なお声をいただいております。ただ、全てを完全に実現することは難しそうな状況ですので、課の方で優先順位を整理するなどしながら、引き続き、利用者や地域の方のお声を聴きながら、進めていきたいと考えております。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ◇:回答

委員

♡ならやま小中学校に隣接しており広大な土地がある。様々な立場でご意見がいろいろ出ている。時間的に来年すぐ動く場面でもないことから、意見がまとまらないと

思う。現状、隣接する小学校の裏手のグラウンドが、統廃合の際は小学生が利用できるはずだったが、統廃合以来遊具は新しく作られていない状態。それだけこの土地利用の難しさを地域としても感じているところである。公民館利用者の方の熱い思いも踏まえて進めていただきたい。

委員

◇平城西公民館の主催事業が113件もある。それほど大きな館ではないが、新しい館ができるという色々な可能性の中で、館長やスタッフが努力されており、事業を考え実績を積みあげてくださっていると思う。館長も3年目で地域の方とも話しながら進んでいる。奈良市全体でバランスよく地域とのつながりをつくってほしいと期待している。

委員

◇今言われたように簡単なことではないと思うが、一つずつ住民の方の声をひろいまとめていくのを公民館や行政がリードしながら、大変だと思うがこれを繰り返し積み上げていく過程がとても貴重。ぜひ奈良市全体にも活かせるかたちにしてほしいと思った。この地域の方だけではなく、市全体の方にもわかるような形で示せばいいと思う。物理的に公民館が新しくなることで住民の方との議論が活発になるということはもちろんのことだと思うが、物理的な要素だけではなくて考え方やソフト面でも、どの地域でも住民と一緒に公民館について話し合っていけるような場を公民館にも意識していただきながら、見え方や運用の仕方、図書や蔵書のことなど、みんなの力でお金をかけなくてもできることもあると思うので、そういう視点で各館ができるようになったらと思う。平城西公民館で話していることをお手本に、良いことも悪いことも共有し、市全体で進められれば、公民館事業も地域も活性化していくのではないかと期待している。

委員

◇今の意見に賛同である。地域全体への情報発信をお願いしたい。公民館や社会教育施設では、利用者が用意された事業に参加するだけでなく、自分たちが公民館をつくっていく方へ一歩進んでいくところが公民館の醍醐味。建物が建つかどうかは明確に分かれるが、発信することで、おそらく他の公民館利用者は羨ましがるとは思うが、でもこうやって熱気をもって公民館を作っていくのだという姿に刺激を受けるのではないかと。自主グループ連絡協議会が、少し元気がない、先行きが不安という声をきくことが増えてきたように思う。自分たちが使う公民館を自分たちで考えていきたいという思いを調整したり、自主グループ同士で調整したりしながら、事業を作っていく意見の食い違いがあっても、奈良市の公民館はそこを乗り換えながら、自分たちで自治を育てていった拠点だと思うので、今不安がっている局面においてこそ、みんなで作る機運を発信することで高まってほしいと思う。

委員

◇既存の公民館が建て替える訳ではないけれども、引き続き続けていきたい事業について話す良いきっかけづくりにもなる。では私の公民館ではどうだろうかと話す機会があればいいと思うが、様々な公民館の自主グループ団体の代表者で構成されている代表者会も含めてだが、公民館で話せる場をリーダー的に引っ張って作っていただければいいなと思った。

財団

◇平城西公民館の建て替えを受けて、地域や自主グループの方が自分たちの公民館のことを話し合ういい機会となったと思う。これまでも他の公民館で話す場(「おしゃべり会」)を設けてきたが、ここ数年できていなかった。継続して実施していくこと

が大切だと考えているので、機会があれば今後実施していきたい。

委員

◆公民館の主催事業が多い館は施設提供が少ない。主催事業が多いから、施設を提供する部分が少ないのか。それとも逆に施設利用が多いから、主催事業が少なくなってしまうのか。これから公民館がより充実していこうとする場面で主催事業を考えられると思うが、施設提供が多いとダブルブッキングが出てくると思うが、そういう時はどうしたらよいのか。施設提供を諦めてもらうのか等考えたら、自主グループの代表者と相談するということが想定されると思うが心配している。

財団

◇施設提供が少ない館でいえば、主催事業をしながら自主グループを育てていくことで施設利用を増やしていきたいと考えている。施設利用が多いのは公民館活動、自主グループ、地域団体が活発に利用されている部分もあり、主催事業をしにくい事情もあるが、主催事業をする際はグループと話して調整することはよくあった。自主グループや地域とも調整して今後も進めていきたい。

市

△平城西公民館の建て替えは市としてはおよそ30年ぶりの新築である。これまでも財団が聞いてきたことを踏まえながらしてきたが、今後より財団と協議しながら、どうやって地域の方と話し合っていくかも含めて進めていきたい。

委員

△中学校で課題となっているクラブ活動の地域移行について、公民館とも相談する中で、子どもたちが放課後や土日に文科系やスポーツに関われるのは、公民館もすごいそういう場所ではあるかなと思う。公民館の館長とも相談させていただいているが、今までにない試みなので中々うまく調整がつかなかった。しかしこの4月から土日に関してクラブ活動はなくなる予定であるので、公民館の地域の活動に中学生が参加できることを大きくアピールしてもらえれば、文科系もスポーツ系も活動を活発にできるのではないかと。高齢化しているのと、若い方と地域の熟練の大人たちのつながりもあるので、これから数年かけて地域移行を完成させるために重要な要素となってくるのではないかと。どうしてもクラブ活動はスポーツに偏りがちだが、公民館活動でいろんなことに挑戦できる機会だと思うので一考してもらえればと思う。

委員

△平城西公民館ではロビーを使った活動を様々しているが、常駐している公民館職員と連携しながら地域づくりができてきているのは大きなプラスである。先週はキッズピラティスを実施し、自主グループでされている団体が実施しており可能性を感じた。

財団

◇部活動の地域移行について、公民館も子どもが地域と関わる場になると思っている。ただ地域の方が教えるだけではなくて、地域の方の人生を知る機会にもなって子どもたちがもっと地域を好きになり、自分事として地域を考えるきっかけになればと思うので、模索しつつ進めたい。まなびと人づくりは1つのものになるので、子どもと大人が話し合える場になればと思う。

委員

◆施設予約システムについて、ボランティアインフォメーションセンターの説明を受けた。公民館は通常4週間前の申請だが、大きなイベントや講座等の時には3か月前に申請して、場所を確定し講座、チラシでの周知も必要。競合になると今まで話し合えていたが、ただ3か月前申請したいが、1ヶ月前に一斉に抽選となり、今後は窓口で調整できないと聞いたが救済措置はないのか。ボランティアインフォメーションセンターでは先着順と聞いて心配している。

市・財団

◇ボランティアインフォメーションセンターとは運用が異なるが、公民館でも抽選する

点は同じである。利用者説明会でも詳細を説明するが、大きなイベントや講座等については3か月前から期間前申請をしていただく際に、これまで通り公民館の窓口にて相談してもらうことで、仰るようなことにならないように対応していきたい。

(4)その他

任期終了前の最後の会議であるので、ご意見など伺う。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ◇:回答

委員 ♡平城西公民館の建て替えについて素晴らしい意見がたくさん出てきている。その中から自主グループの新しい会が立ち上がり、地域の活性化のヒントが見えた。地域は世代交代をしないと活性化しないと感じた。

委員 ♡部活動がなくなって子どもが動ける時間ができる中で、子どもが地域と出会う場、コミュニケーションを取る場を公民館で作っていただければありがたい。

委員 ♡親子がふらっといつでも立ち寄れる場所として、高齢者のためだけの場所ではないことが少しずつ若い親に根付いてきたのではないかと。親子に対する公民館の在り方を提案できればよいと思いつつ参加していた。

委員 ♡公民館を利用する際に高齢者は靴脱ぐのがしんどいので、なるべく土足がいい。もし靴を脱ぐなら、椅子が無いところは設置してもらいたい。

委員 ♡公民館が変わらなければならないというこの2年の中で、公民館がすごく変わってきていると感じた。平城西公民館の利用者も昔に比べると利用者の年齢が若くなってきている。市、地域、学校の関係性の中に、公民館が入ってきてもらえるといい。いろんなところで稼働するのではないかと。様々な部分が縦割りである部分も含めて、なるべく地域に負担がないように回っていくようにするのがこれからの課題であるので、そこに公民館が関わってくれることを期待している。

委員 ♡公民館は高齢者や小さい子どもがいる親が行く場という考えから、小中高生も自由に集える子どもたちの居場所となることを知り、これから作っていくのを見ていきたいと思った。

委員 ♡公民館が地域の中にあることが大切であると実感した。

委員 ♡24館の公民館について限られた回数の会議で限られた委員で審議することの難しさを感じたが、公民館運営審議会の本来の役割を考えると、公民館の利用者、公民館を利用していない人の様々な声を受けながら、議論と対話を尽くしていただきたい。この審議会委員の中に公民館利用者の代表の方にも参加いただきたい。

資料

- ・令和7年度第2回奈良市公民館運営審議会 次第
- ・名簿「第38期 奈良市公民館運営審議会委員」
- ・資料1～3